

会 議 録

- 1 会 議 名 第5回北九州市次期教育プラン検討会議
- 2 会 議 種 別 市政運営上の会合
- 3 議 題 次期「北九州市教育プラン」の内容について
- 4 開 催 日 時 令和6年7月1日（月）10時30分～12時00分
- 5 開 催 場 所 小倉北区役所東棟8階 811・812会議室
（北九州市小倉北区大手町1番1号）
- 6 出 席 者 構成員8名、教育長、教育次長、事務局

7 会 議 経 過（発 言 内 容）

（1）開会及び教育長あいさつ

教育委員会を代表いたしまして、一言ごあいさつをさせていただきます。

こういった雨の日の会議では、「お足元が悪い中をご参加いただきましてありがとうございます」という定例の言葉があるんですが、お足元が悪いどころではなく、学校の休校等の判断もある中で、この会議そのものも、今日開催していいものか、すごく悩みました。そこで相談をすると、オンラインという手もあるので、予定通りいきましょうということで、本日こうやって無事に開催させていただきました。本当に大変な中、ご参集いただきましてありがとうございます。また、友納構成員もオンラインでご参加いただきありがとうございます。

昨年12月にこの会議を立ち上げ、本日は最終回でございます。5月の前回は、書面開催という形でさせていただきましたが、無事にパブリックコメントも終わり、本日はその報告も兼ね、最終案をお示しすることができております。本日、皆様からご意見をいただいた後の流れといたしましては、議会に報告し、予定であれば8月にプランを策定したいと考えております。

これまで皆様から本当にいろいろなご指摘をいただきました。言葉通り、社会や学校現場は、変化や多様性という言葉の通り、毎年どんどん変わっております。そういう意味では、これからの5年間を見据えた計画ですが、5年後はどうなっているかというのもございますので、見直しをかけるということも考えながら、作り上げていったところでございます。

この計画を策定したあとに、具体的な事業に落とすにあたりましては、予算化だと

か、あるいはそれぞれの事業のガイドラインだとかは、私ども教育委員会で、学校現場や保護者の方々にもわかりやすく、プランの姿が見えるような形で構築していきたいと考えているところでございます。

本日は、本当に最後の会議でございます。これまでに、あれも言えばよかったというようなことがございましたら、本日は話していただきたいと考えております。ぜひ、よろしくお願い申し上げます。

(2) 議題 「北九州市こどもまんなか教育プラン（案）」の市民意見等の結果及び プラン最終案について

○ 眞鍋座長

今、教育長からもありましたように、本日の議題は、北九州市こどもまんなか教育プラン（案）のパブリックコメントを募集しましたので、その結果及び教育プランの最終案についてです。全体スケジュール、それから北九州市こどもまんなか教育プランの案を一括して、事務局より、ご説明いただいてよろしいでしょうか。

栗原企画調整課長より説明（資料1～資料3）

○ 眞鍋座長

ただいま事務局より市民意見と、プラン最終案が示されました。これについてみなさんのご意見をいただきたいと思っております。

参考資料の全校アンケートの結果に対する質問でもかまいません。ボリュームが多いので、読み込みに少し時間がかかるとは思いますが、ご意見をいただきたいと思っております。

○ 宮口構成員

たくさんのご意見をいただき、そのひとつひとつが、この会議だけではなく、私にとってもとても非常に参考になると思いました。

少しだけ意見を述べさせていただきたいと思っております。No.23、24の安全安心ということは、前回の会議でも意見を述べさせていただきましたが、こどもが安心できる学校生活という表現がございます。安全だと考える大人の考えだけではなく、どうしたら安心できるのかということこどもの視点を反映させてほしいという意見がありますので、積極的にこどもの意見を聞いて、どうしたら安心できるかということを反映していく必要があると改めて感じたところです。

No.24の「叱ってあげることが」という表現がございまして、この扱いは非常に多くの議論がなされているところだと思っております。「褒める」という言葉はよく出ますが、「叱る」と「怒る」の違いであったりとか、そこは私たちも、非常にたくさんのディ

スカッションをして、まだはっきりと結論が出ていないのですが、こういう表になった時にどのように回答したらいいのか、こういう意見があった時に、具体的に先生方がどのように回答したり、考えを述べたらいいのかというところも、とても大事な所だと感じました。

No.36では、「意見を言う力」「コミュニケーション能力の向上」という言葉が、改めて意見として出ていると思いました。これは永遠の課題だと思っていて、AI技術を使って文章を作ったり作らせたりして、私たちも含めて文章を作らなくなってきており、それを平気で自分の意見のように使う時代になっています。非常に便利だと言える一方で、自分で言葉を述べたり、文章を構成するといったコミュニケーション能力の向上が、大きな課題になってくると思いますので、この考え方自体、この5年間で、どれだけ子どもたちの中に浸透していくのか、また、経済的にこうしたデバイスを使うということが難しい子どもがいた時に、それに置いていかれてしまうのではないだろうか、危惧することも感じました。永遠の課題だとは思いますが、コミュニケーション能力を向上させることの意味をクリアにしておく必要があると思います。

No.72、73のところで、すべての子どもたちが取り残されないようにすることを、改めて反映していく必要があると思いました。多様性も含めて、ここには注目している、重点を置いているということを示していくべきだと思いました。

それからNo.120の先生の意識を高めるというところで、校門のすぐそばでたばこを吸っているとあって、外に出たらたばこを吸っていいという意識は、先生のストレスという観点からもそうですが、感覚を共有することがとても大事だと思っています。外から見た時にどう感じられるかという事もあります、どのようにストレスを軽減して健康を保つかということ、改めて市民の意見を反映させながら考えていく必要があるのではないかと考えています。一方的にならないようにしないといけないと思います。

ここは非常に大事な観点だなと思ったのは、No.127の「かつての学校は地域の拠点だった」というご意見です。いろいろなリスクの面から、外から人を入れないという流れになっていると思います。ただ一方では、地域の繋がりを作っていかなければいけないということで、「開かれた学校」という意見もあります。

ここは相反するようなことだと思いますが、私が最近考えるようにしたのは、どちらかを選択するのではなく、両方が実行できるためにはどうしたらいいか、orではなくandの精神ということで、地域の繋がりを作りながら、しかもリスクも考えながら、ということを考えるためにはどうしたらいいかということが非常に大事になっていくと思います。怖い事件もたくさんあるので、一概にこうしたらいいというのは難しいかと思いますが、この5年間を通じて、ディスカッションを深める必要があるのではないかと考えています。

○ 眞鍋座長

時代の変化の中で、多様な価値観を持つ方がいる中で、非常に難しいと思います。社会の声を聞きながら、学校に社会の目が注がれていくことが大事だと私も感じております。

○ 上田構成員

資料を見させていただいて、本当に良くまとまっているし、各方面の意見を取り入れた案だと思っています。これだけたくさんの事項を盛り込んだものを、どういう形で実行していくのか、あるいはどう強弱をつけていくのか。田島教育長がおっしゃっている予算との関係もあるでしょう。この5年間どういうふうに、書いていることが活かされていくか。今から教育に携わる方々の知恵の出どころではないかと思えます。そこは大いに期待したいと思っています。

もう1点は、時代は変わるということです。今AI、ITと言われていますが、これはまだ初歩の段階です。これから急速に発展していき、1年、2年、3年と経ったら、世の中ががらっと変わっているということも当然あるわけで、一生懸命熱を込めて作ったこのメンバーが変わっているということもあるかもしれません。

従って、この案が5年間、金科玉条に守られるということではなく、どこかでもう1回チェックを入れていくような、柔軟性があるものにしていった方が、ここで皆さんが作られた熱が伝わっていくのではないかと思っています。

○ 眞鍋座長

ありがとうございました。実行の部分と、途中でチェックを入れる必要性という意見がありました。これに関して事務局はいかがでしょうか。

○ 企画調整課長

ご指摘ありがとうございます。

5年間、金科玉条でなくというご指摘については、まさにその通りだと思っており、実際に追加でプランの中に入れてある部分、具体的には、最終案の資料3の12ページですけれども、計画期間5年という中で、社会情勢の変化に対応するために必要に応じて適宜見直しをかけて参りますと書いております。

その点につきましては、今後の変化等をよく見ながら、しっかり対応して参りたいと考えております。

○ 眞鍋座長

今の教育振興基本計画の中に不易と流行と結構大きく書いてありました。教育というのは、変わらないものも重要ですが、変わっていくところは変わっていかなくてはいけないという、その難しさがあるのだらうと思いました。

○ 鶴見構成員

パブリックコメントについての、コメントというか意見を述べさせていただきたいと思います。

私も「こどもまんなか」という話の中で、「地域まるごと教育の場」ということを述べさせていただきました。

これを読んでいると、保護者の意見から、何か滲み出ている感じがしました。特にNo.123の、家庭の役割を明確にというところ。要するに、地域で子どもたちをちゃんと見守り支えて、育てていくということです。

その時に、この議論で出てきたのは、我々高等教育機関、それから地域の企業、そういったところの教育・人材を使って、「地域まるごと教育」を進めていくという取組をさせていただいてきたわけです。

一方で、地域の教育、子どもを見守るという中には、家庭の問題があって、例えば、家庭と学校間のコミュニケーションがうまくとれていない。どうしても一方通行的な意見が学校に寄せられたり、あるいは、学校が考えていた意向が保護者に伝わっていかない。「地域まるごと」という意味を、あまりにも学校が中心というふうを考え過ぎていて、そこが社会とちょっと距離があって、どうしても対立構造を生みやすい形になった。そこをまず壊していかないと「まるごと」にならないのではないかとというのが、私の意見です。

その中で1つあるのが、放課後の事業です。ひまわり学習塾などがありますが、そういったものが、どの程度地域の中で知られていて、浸透しているのかというのは見づらいです。それから、ある人が言っていたのですが、学童に関しても、他の自治体と北九州市では、かなりやり方が違う。要するに、あまり手を出さないで放任しているというスタイルを北九州市はとっていると、その人は言っているんです。

一方で、STEAM 教育の考えを進めていく中で、例えば、そういう放課後の事業を行ったり、その中で芸術的な要素だったり、芸術家ではないけれども、そういうことを経験させると面白いと考えまして、うちの教員とそういうプログラムをつくれないう話をしているところで、教育委員会といろいろと打ち合わせをしておりますが、そういった形で我々も協力をしたいと思っています。

ですから、「まるごと」の中には放課後の事業を入れていくのもあるかと思います。

それから、ウェルビーイングの話です。これまで私は、あまり教職員のウェルビーイングのお話をさせていただいていないのですが、やはり現場の先生、特に若い先生の処遇と待遇の問題。例えば、時間がない、人がいないなど、どんどん減らされていく一方で仕事がどんどん増えていく中で、先生がそもそも先生になったのは、ものすごくやる気に満ちていて、先生の喜びも感じて教壇に立っていると思うんです。ところが、その状態がずっと続いていく中でだんだん疲弊していく。最近聞く話では、1年もたたないうちに辞職してしまう。今の若い世代の考え方と今の教育の教員の育

て方、ウェルビーイングのあり方というのが、かけ離れているんじゃないかと思いません。

やはり先生は、教えることに対して喜びを持っている。こどもたちを教えることを生きがいに行っていると思うんです。一方で、教えること以外のいろいろなことに時間を求められてしまう。これは根本的な問題だと思って、予算的な問題もあると思いますが、その他の問題もいろいろと絡んでいますから、簡単には解決できないですが、本当に、若い先生方に現場で能力を最大限発揮していただくためには、今までのやり方では限界がきているのではないかと思います。

○ 眞鍋座長

特に 1 点目の家庭と学校がどうしても対立構造になりがちにというのは、私も思うところです。「日本の将来を担うこどもたちを育てるんだ」という目的からすると一緒のはずなのに、対立的になってしまう。ここを何とかしないといけないというのを改めて思いました。

○ 友納構成員

プランに関しては、北九州市の教育の方向性がとてもよく見えたので、現場のドクターとしては安心しました。実際これをどうやっていくかは、今後の課題であると思います。

市民意見のNo.53。1名の養護教諭だけでは人的なリソースが圧倒的に足りてないので教員や医療関係者などとの連携した仕組みが必要ではないか、という意見に私はとても考えさせられました。実際私たちドクターは、外来で睡眠の大切さとか、食事とか、運動とか、そういう話をしています。私自身も、セロトニンとかメラトニンとかがどうやってできて、眠気がどう来るのかとか、寝ている間に脳は何が起きているのかとか、そういう具体的な話を実際にやっています。コロナ禍の前には、小児科医会でも、生活習慣について講演をしたことがあります。もしかしたら私たちドクターが、こどもたちに向けて、そういう生活習慣の大切さを直接伝えるというのは、できるのではないかと思います。

「地域まるごと」で、官と民の話が鶴見構成員から出ていましたが、医療と教育の連携に関しても、予防に関しては、学校医の先生方がしてくださっていますが、いかに睡眠が大事で、最近の脳科学とか医学の知見とかがとてもよくわかりやすく出てきていますので、それをこどもたちに伝えることは私たちドクターができると思います。

この教育プランの会議に携わらせていただいて、本当によかったと思います。ありがとうございました。

○ 眞鍋座長

今のお話は、養護教諭が1人だという意見に考えさせられたということと、養護教諭とドクターの、仕事の住み分けができるかもしれないというお話かと思います。

○ 窪田構成員

プランの最初に、「こどもまんなか」のことを書き込んでいただいたことはとてもよかったですと思いました。児童生徒の声を聞くというところ。ここがないと「こどもまんなか」と言いながら、大人が勝手に考えているってということになるので、非常によかったですと思います。

校則づくりに限らず、先ほど叱ってあげるということをめぐって、ご意見が出ていました。不適切なことが起きたときに、どうしても、教え諭して叱ってという視点で大人は関わってくるんですけども、そういう1つ1つのことを、日々の関わりの中で、こどもたちにどう考えさせるか。「こんなことが起きているけれども、それについてどう思うのか」「なぜそういうことが起きると思うのか」「どうすればいいと思うのか」を1つ1つ問いかけていくと、それでも不適切な行動をすることもありますが、大半はそうではない。よく「262」と言いますが、2は正しいことを思っていて、6もわかっている。2だけが何か問題を起こすとよく言います。6は教育によって変わるようで、1つ1つの事象に関してこどもに問いかけて、考えさせるというアプローチがすごく重要だと感じています。

そういう意味で先ほどご指摘があった、意見を言う力とかコミュニケーション能力とは、こどもたちが自分で考えて自分の意見を言う力を育てるところに尽きると思うんです。そういう点では、やはり多様な人に触れたり、多様な活動に触れたりして、そこで自己肯定感を育んだりしていくという意味で、ずっとこれまでの議論の中で扱われてきました。それから放課後の活動、習い事を少し無償化したらというご意見が、結構市民意見であっていますが、この辺りはすごく格差が出る場所です。私も小学校に関わっていますが、毎日いろいろなことをやっているこどもがいるかと思えば、全くそういう機会がないこどももたくさんいて、すでに格差によって体験の機会を奪われていることがあると思うので、放課後の活動という形で、企業の方とか大学の方とかいろいろな方が関わりながら、様々なことを経験する中で、自分で考えて自分で意見を言う力が育つのではないかと思います。

それから、養護教諭の話もありましたが、こういうプランができて、そのあとはどういう事業をやるかという事業に目が向くと思うんですけども、やはり適切に人が配置されることが、先生方のウェルビーイングもそうですし、地域や企業とかとの連携の担い手などにもつながると思います。

○ 眞鍋座長

ありがとうございました。私も共感をするところで、いろいろな教育の取組が増え

てくる中で、先生方が上から降ってきたものだと捉えてしまうと、なかなかウェルビーイングに繋がらなく、場合によっては、こどもたちにも、良くない影響が及んでしまうということもあるかなと思います。

○ 泉構成員

教育プランの最終案やパブコメを拝見して、2つ意見を共有させていただければと思います。

改めてこの最終案やパブコメを拝見して、構成員の皆さんの知見や、全校アンケート、パブリックコメントが蓄積した、意思決定の指標に感じる最終案と感じました。つまり、皆さんでたくさん意見を出し合って、絶えず話し続けるプロセスを踏まえて、この最終案をお示しできたということに、すごく価値があると思います。

市民意見のNo.36、「自分で意見を言う力」に関しましては、この最終案が、みんな意見を出し合い束ねたら、こんな大きなことができるという、こどもたちの希望に繋がるものとなったのではないかと思います。

地域企業との連携が、今後のこどもたちにとって益々大切と改めて感じました。このプランを実践するフェーズになったら、このご縁を基に構成員の皆さんと連携協力できることがありましたら、ご一緒させていただけますとありがたいです。

○ 眞鍋座長

そうですね。何かこれが連携の機会になればいいと、私も思いました。

○ 下岡構成員

今回非常に良いプランになったと思うので、あとはこの実行というところで、すごく差が出てくるかなと思います。そこは非常に期待したいですし、我々もできることは、親としてやっていきたいと思っています。

もう1つは、福岡にボーダレスジャパンという社会課題を解決するためのベンチャーがあり、そのイベントで300人ぐらい集まる会に参加してきましたのですが、社会課題を解くために、起業家である人たちが立ち上がっていろいろな社会課題を解決しようという人達が集まっているんですけども、教育という文脈で事業をやっている方が非常に多くて、例えば不登校のこどもたちに対してオンラインの学習を提供しているとか、貧困のこどもたちに対して教育を提供するとか、学校の先生たちの学びの学校みたいなことをやっていたり、教育というテーマに対して、何かを思って動かれている方が多いというのを非常に感じました。

もちろん官としての、教育がどうかということもありますが、民間も、昔のように官に任せっ放しというよりは、民間でやれることをやっていこうという流れもあるので、そういったところと市がうまく組みながらやっていくことが非常に重要であり、有意義なものができるのではないかと考えています。その方々はどうやって行政と

一緒にやっていくかということを中心に話されていたので、今後のひとつの形として、官と民が連携して教育をしていくということは、小学校や中学校でもスタンダードになっていくのかと思いました。

もう1つは、そういった社会起業家だけではなく、スタートアップと呼ばれる方々たちと、日本がどうやって変わっていくかとか、この先何を目指していくかみたいな話になると、最終的には教育だねという話に大体なるんです。そういった方々も、社会を変えようと思ったときに、一番重要であり、結果の要素があるのが教育で、そこが変わると変わっていくよねというのはみんな課題として思っています。特にスタートアップの文脈で言うと、海外に行っても日本人は優秀で、海外でも全然負けなと言われるんですけども、唯一、チャレンジ精神とか、ルールを守るのではなくて変えていくみたいな思想に弱い。今までがどちらかということ、製造業の時代で答えがあるものを素早く正確にできるということから、今後、新しく作っていくという社会になっていく中で、教育が占める割合というか、重要度がすごく上がると思っていますし、社会で活躍している人たちが一番大切だと感じていることが教育であるということには、すごく重要であり、今回もこの議論の中にも、たくさんその要素は詰まっていたと思います。

こどもたちは、次の時代を生きる宝だと思っています。皆さんがこうやって本気で議論された内容が、こどもたちにも反映されると、すごくよくなるのではないかと思いますので、私もできることがあれば、今後も何かできればと思っています。引き続きよろしくをお願いします。

○ 眞鍋座長

企業の皆さんの中には、できるだけ優秀な人を採用していきたいという思いが当然あるし、もっと言うと、社会人として、市民として若い人たちを育てていくという、志をもった企業や、経営者の方も非常に多いと思います。そういう方が学校教育に参加するというのは、私も重要ではないかと思っています。

それから2点目のグローバル化の中で、やはり真面目で、能力も高いけれども、チャレンジ精神が弱いというのは、いろいろなところで指摘されるところがあると思います。その辺りも今後取り組んでいく必要があると、改めて思いました。

それでは、ここまでご意見いただいたところで、急に振って申し訳ないのですが、教育長いかがでしょうか。

○ 教育長

皆様のご意見を伺いながら心に響いたのは、上田構成員の、時代は変わって、本当にどう実行していくかという点が重要だって話の中で、私が教育長になって6年目で、6年前を振り返ったときにつくづく思うんですけども、教育現場では「不易流行」という言葉が本当によく使われるんです。そもそも何が「不易」かというものが、

この6年間で結構変わってきました。では北九州市の教育の不易は何なのかという根幹をしっかりと考えていって、例えば、STEAM 教育やAI・IT といったものはどんどんと進化する。一体本当の教育現場に求められる「不易」の部分、根幹は何かということのをこれからの5年間、こどもたちと接する中で考えていかなければいけない時代だと思います。

下岡構成員から、ちょうど今の小学生のこどもが成人するときは、いわゆる企業に就職するという時代ではないので、自分は何をするのかということのを求め、自分で解を見つけられるようなこどもたちに育ててもらわないといけない時代になると言われました。本当に不易の部分、学校教育の根幹として進めていくことが求められていくと思います。

○ 教育次長

このプランは、今のこどもたちが大人になった時に、どんな力をつけることが必要かということを見据えて作られているプランなんですけれども、皆様のご意見の中に、今のこどもたちは、自分で考えて、自分の意見をもって、そしてそれを多様な人たちとコミュニケーションをとりながら、自分なりの解を見つけていく。またさらに、みんなで何かを作り上げていくときに、しっかりと意見を言い合いながら作り上げていく、そういう力が大事だということ、ご意見いただきました。本当にその通りだと思っており、そういったことが盛り込まれたプランになっていると思います。

これをこれからどう実行していくか。そして何より、学校の先生方に、何のためにそういうことをするのかという、その意味や目的を、学校の声を聞きながら学校と一緒に作り上げていくという、プランを作り上げてきた過程のように、学校としっかりと話し合っ、実効性があるものにしていくことが必要だということのを改めて感じました。

また泉構成員からもありましたように、この会議のプランの会議を通して、いろいろな繋がりを持たせていただいて、いろいろな協力ができるよという、心強いご意見もいただきました。この繋がりを大事にしながら、よりこのプランを実効性のあるものにしていきたいと改めて感じました。

○ 眞鍋座長

そうですね。実行というのが大事だということのを改めて確認ができました。

この教育プランは実行が大事だという話が出てきましたけれども、市役所のいろいろな関係部局の方に関わっていただいております。今回が最後ということもありますので、このプランについて感想とかご意見があれば、各部長にコメントいただきたいと思います。

○ 計画調整担当部長

5回にわたる議論と取りまとめに向けて、様々なご意見をいただきありがとうございます。

私は昨年4月に着任し、計画調整担当部長を拝命いただいて、この大綱とプランを取りまとめしていく中で一貫していた考え方は、今まで大綱とプランは、作って終わってしまうケースが多いので、これをきっかけにどう学校現場を変革していくのか。特にずっと言っているのは、「組織カルチャーを変えたい」ということです。

コロナの時期を経て、教育委員会も学校現場も、一律に横並びで今まで通りに集約してしまうと、社会がこれだけ変わっているからこそ、現状維持さえ出来ないということなので、もっと前向きに成長志向で、変革に向かっていくというカルチャーをどうにかつけれないかと考えておりました。

まさにご議論いただいたこのプラン、大綱自体が私の中で、ようやくスタートラインに立てたという意識を持っていて、これをどう学校現場と地域にマインドとして供給を図ってご理解をいただいて、変革に向き合っていく取組を進めていかないといけないと思っています。

その手法については、私の中でもなかなかこれだというものがなくて、ただ1つ、仮説ではないんですけど、行きつくかなと思っているところは、対話。対話量が足りないと。働き方改革の中で、学校現場はどうしても時間外労働を減らすために早めに帰れとなり、それで時間がなくて対話がなくなる。地域にしても、今までの積み上げの中で取組が文章化されてしまって、その取組の意識の差があるがゆえに、そこで対話がないからこそ、軋轢が生まれてしまう。対話量が足りないのではないかと考えています。

この大綱とプランを、対話をするきっかけ、方向性を示せたという意味では、これをきっかけにどんどん地域と学校現場と教育委員会、企業の方々含めて対話をしていくということが重要ではないかと考えています。

皆様のご意見や思いを我々も受けとめて、各学校現場と地域が、共有していきながら、新しい北九州市教育委員会のあり方を一緒に模索できるような形にしていきたいと思っています。

○ 総務部（人権教育担当）参事

5回のこの検討会議、活発なご議論を踏まえまして、すべてのこどもにとって居心地のよい学校を作るために、関連する部分を、各学校と連携・協力しまして、多様な人権教育を進めて参りたいと思います。ありがとうございました。

○ 教職員部長

このプランを具現化するために、基盤になることが、働き方改革ではないかと思っ

ております。

現在本市は、組織的な業務改善の取組、例えば人材確保はもちろんですが、次のフェーズとして、教員一人ひとりの意識改革、マインドセットの推進に力を入れているところがございます。これは、先生方の中にはどうしてもこだわりが強く、そして今までの経験値を踏襲してしまうという方々がございます。そういう方々の意識改革、マインドセットをしていくということも必要なのではないかと考えています。

具体的には、業務改善、意識改革のために学校訪問をし、各学校でよい取組を紹介したり、各学校独自の働き方改革何か条というのを設定したりして、教職員からのボトムアップで働き方改革を推進することを支援しております。働き方改革は、すべての施策の基盤になると考え、今後もしっかりと取り組んで、教職員一人ひとりのウェルビーイングを高めて参りたいと考えております。

○ 学校支援部長

幅広い観点から、様々なご提案をいただいております、本当にありがとうございます。

学校支援部ということで、教育そのものというよりも、子どもたちが安全安心で快適な学習環境の中で過ごせるように、施設整備でありますとか、将来にわたって健康な生活を送れるような健康づくりであるとか、学校給食、あと経済的に厳しい子どもたちの支援、就学援助や奨学金など、そういったものを担当させていただいております。

国を支えていく次代を担う子どもたちを育むということで、教育は大変重要だということ、まさしくその通りだと思いますし、今回ご検討いただきましたプランを具現化していく中で、そういったものに少しでも近づいていけたらと考えております。

学校を支える教育委員会事務局の一員として、このプランに基づいて、しっかりと施策を進めて参りたいと考えております。どうもありがとうございました。

○ 学校教育部長

ご議論、ご意見本当にありがとうございます。

学校教育部は、実際の教育内容とか、先生方の指導とか、そういうことを担当する部署です。

私も学校出身者ですので、本当にこのプランを自分が教員として実現するならば、そんな形でよく考えるのですが、先ほども出ましたけど、一番は、マインドの改革とか、先生の一人ひとりの気持ちが変わっていく、変わらなきゃいけないという気持ちを持つことが大切だと思っています。

例えば今、疑いなくやっているスクール形式の一斉授業、「起立・礼・お願いします」で始まる授業、それがそのまま、このプランが本当に達成できるのか。そういうようなところから具体的に考えていくべきかだと思っています。

また、罰を与えるようなことで規律を守らせていく教育が、本当に正しかったの

か、これからもそれが正しくあり続けるのか、それよりも困っていることにコミットしていく、支援していく、そういうことの方が大切なのか。

また、教員や学校が、こどもを支配するというか管理することで、こどもが育っていくのか、それとも自立、自由を与えていく方が育っていくのか。

そのように、1つ1つ、今の学校で行われる指導とか先生方の立ち位置を、もう一度ここで考え直していく。そして、最終的にはこどもと先生の信頼関係の上でしか教育は成り立たないと思っております。一斉授業でも集中して、主体的に学んでいるこどもたちがいるんです。必ずしも自由に、一人ひとりでやっていたら主体的になるというわけでもなく、その違いは何かというと、私は先生だと思っております。先生とこどもの関係だと思っておりますので、そこをしっかりと見直して、そしてこのプランの実現に向けては、これが大切ではないかと、私は思っております。

○ 教育相談・特別支援教育担当部長

ご審議ご意見ありがとうございます。

私は生徒指導と特別支援教育を担当しております。

児童・生徒や学校と、直接関わる対応が求められる課ではありますが、学校を通じて対応するというのは、もどかしいところもあるのは事実でございます。

パブコメにもありました不登校の原因として、先生との関係についてのご意見がありました。もちろん担任の先生の対応の強化、そういった向上を図る必要もあると思いますが、現場の担任の先生だけではなくて、管理職、それから養護教諭、生徒指導担当やスクールカウンセラー、ソーシャルワーカーとか、支援センターなど、多くの部署の人が関わる体制や、マインドを醸成しているところでありますが、もっと進めていかないといけないと感じたところです。

障害のあるこどもたちにとっては、個別最適な学びの場の提供が大切と考えております。これは、就学相談で最適な就学先を決定することと、こどもたちに相對する教職員が、それぞれの特性をしっかりと理解・把握し、対応できる力をつけることが必要だと考えております。

特別支援教育課では、各中学校区で行っている特別支援学級担任の研修会でも、指導主事が参加して、個々の力が高められるような取組を行っているところです。

こういった取組を止めることなく、今後の教育プランが具現化できるような施策を考えていきたいと考えております。ありがとうございました。

○ 中央図書館副館長

今回のプランを踏まえて、今後の北九州市立図書館の目指すべき方向性を明らかにして、よりよい図書館を育てていくために、現在図書館の推進計画を策定しているところでございます。その中で、3つのキーワードを持って進めていこうと考えております。

1つは、学びのある図書館。

1つは、安らぎがある図書館。

1つは、つながりのある図書館。

特にこどもの読書活動の一層の推進や、社会人の学び直しの支援など、学びを深められる場を提供していきたいと考えております。

それから先ほど構成員の皆様との議論の中で、自分で考え、意見を述べる力の必要性が多く出されておりました。図書館ではそのアウトプットを行うために必要なインプットの部分、いかに充実した資料をそろえて、そして、いかに子どもたちに提供するか。図書館では、そういったところにも今後尽力して参りたいと考えております。

それから、誰もが安心して過ごせる読書バリアフリーを推進しながら、市民が気がねなく、居心地のよい場所、そういう空間を作って参りたいと考えております。

そのために、各学校、それから各関係機関、皆様と連携して参りたいと考えております。これまでのご議論本当にありがとうございました。

○ 眞鍋座長

それでは、本日この検討会議の議論は最後になります。構成員の皆様から、これまでの議論の総括や感想とか、新たなプランへの期待など、皆様からご意見を一言ずついただきたいと思っております。

○ 窪田構成員

ここでは、今までのご意見も含めて、本当に様々な議論ができて私にとっても学びが多い期間でした。

最終的には本当に何を大事にするかということで、議論を深めることができたというふうに思います。

今、それぞれ部長さんのお話を伺って、これをすでに、それぞれの部署で、どう展開していくかというアウトラインを見せていただいたので、この後も何らかの形で進捗を見せていただきながら、関わっていただけたらと思っております。ありがとうございました。

○ 鶴見構成員

非常に有意義な会議でした。私自身も、改めて教育について考えるいい機会になりました。

今回の5年間のプラン、これは本当にスタートです。高専の学生も含めて、子どもたちには何が必要なんだろうかということを常に意識しています。議論の中で、ちょうど今の小学生が、5年後には高専に大勢入ってくるわけです。こういう人たちに入ってきて欲しい、ということをイメージしていました。高専で5年たったら社会に出て、どういう人材になるのか、そういうことをずっと考えながら、10年単位でイメ

ージしながら、議論に参加させていただいていました。

そういう意味では、私も考え方が異なっていることがあります。皆さんと話しながらいろいろ考えが変わってきております。ですので、本当に良い機会ですので、皆さんとまたどっかのタイミングで意見交換しながら、教育について議論が出来たら嬉しいと思います。

○ 宮口構成員

「こどもまんなか」という表現がとても新しくいいと思いました。こどもを真ん中に置くというところからスタートして、議論を重ねていくと、やはり本当にいろいろな意見が出てきたのではないかと考えています。

それでもキーワードとして変革という言葉が何度も出て参りました。そのキーワードを共有することはできると思うんですけども、変革の次の、成長であったり、発展ということになると、いい状態なんですけれどもそうなったときのアウトカムを、どのように設定して、そしてそこに向かって具体的にどうするか、どのような投資をしていくかという話になる。

ここから5年間でどのような成果が出て、どのように徹底的にやっていくのかということが重要になってくるのだろうなと思います。

私もこの4月から大学の経営に関わるようになって、具体的に経営を判断するために、非常に多くのやり方が山積をしているなと思っていました。私たちの組織の中だけでディスカッションを繰り返しても発展しないのであれば、外部の先生とかあるいは専門家の人達の意見を取り入れて、そして好循環を新しく起こしていく。そういった意味で、今回の構成員の中に、外部から企業の方々が入っていただいて、通常私たちも、どうしても専門家だけの話になってしまうんですけど、そういうディスカッションをすることができたことはとても貴重だと感じることができました。

最終的には、それぞれの地域にある地域課題を含めまして社会の中の課題を解決するためには、地域資源をどれだけ育むかということがとても大事で、まだ埋もれていることがたくさんあると私は思っています。

こういったものを活用していく、いろいろなヒントをいただいたような気がしました。下岡構成員がおっしゃったような、新しいベンチャーの人たちが教育を考えているということがすごく新鮮だったので、どうしたらこどもたちのためになるような、ムーブメントを起こせるのか、若者たちの考え方も含めて、積極的に取り入れられるといいと思います。

そういった意見が北九州の中で反映されていき、5年、10年と発展していけるということを期待しています。

私も引き続き、研究を通じて北九州市と関わっていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○ 上田構成員

私の立場は、企業人として、これまではあまり教育に関して考えることはなかったんですけども、このように教育について考えることができ、大変参考になったと思っています。

会社の経営に関しても同じことが言えます。その中でまず感じていることは、主に盛り込まれている教育大綱・プランが、非常に皆様が、やっぱり世の中の変化とともに、教育をやっぱり変えていかないといけないという、非常に熱い気持ちが、この中に盛り込まれているなというのはよくわかります。ただ、多分、今まで荒れた学校という時代があり、それを克服して、今また世の中が変わるという中で、皆様がやっぱり北九州のこどもたちを、より立派な大人にしていこうという気持ちが溢れているということは、非常に実情として感じたというのが、正直な感想です。

それともう一つは、企業の方は、会社っていうのは、人でできているわけですし、それから企業人も親であるわけですから、教育に関して興味はあると思います。

ただ、残念ながら、教育と企業の間少し距離があるかなというところですね。それで、この教育大綱やプランがあったときに、やっぱり企業の方々と話をして、企業に対して、求めていること、企業にやってほしい、考えてほしいことを話す機会を作ると、もう少し企業との距離が短くなるんじゃないかと思っています。

○ 下岡構成員

この会議に参加させていただく直前に、こどもの授業参観に行って、「2+3」を1時間ぐらいかけて教えていて、何やってんだろうなと思っていたので、今の教育に少し懐疑的なところから始まりました。でも実際皆さんがやってらっしゃることとか、その裏にあるものを見ると、やはりすごく難しいというか、複雑な問題が絡み合っているというのがすごくわかりました。そういったことを知れただけでも、私は非常に有意義だったと思っています。

1ユーザーとして学校教育というものを見る中で、いやこれはちょっと、と思うこともありましたし、一方で、議論の中に入ると、学校に行けないこどもとかは、頭では知っているけれど、そんなにはいないだろうと思っていたものが重要な問題だったとか、1ユーザーだと知らないけれども、皆さんのような全体を見ている方から、そういったところがわかり、それをどうにかしようって考えてらっしゃる方がいるというのは、私も勉強になりました。

ビジネスの例えになってしまいますけれども、ビジネスでは、支持される会社と支持されない会社は、圧倒的に顧客志向かどうかというのがあって、ユニクロは非常に顧客志向であるがゆえに支持される、改善されることがすごく多いと思っています。さっきの反対になるんですけども、1ユーザーから見ると不便だと思うことも、全体から考えると見えなくなってしまうことはあると思っています。私も提供者側としてサービスを考えると、これをやるとちょっと面倒くさいとか、これやる

とコストになるとか、そういう提供者側の視点で考えると面倒なんだけども、実は顧客側からとってみると、非常に重要であることって往々にしてあると思っています。どれほど顧客志向でいられるかというのは、企業の強さであり、それがひいてはユーザーに支給されるサービスになるというのは、セオリーとしてすごくあるし、それは結構普遍的なものではないかなと僕は思っているんで、提供者側として考えるところも非常に重要でありつつ、最後はユーザーがどう感じるか、それは親であり、子どもであり、教員であるかもしれないですけども、そういう中で、本当に対話をしていながら、いいものができていければ、すごくいい教育になると思いますし、北九州で子どもを育ててよかったなと最後に思えるようなところに住みたいと思うし、それがここで話した最終的なアウトプットになればいいと思います。私にもできることがあれば、一緒にやっていきたいと思しますので引き続きよろしくをお願いします。

○ 友納構成員

今回、参加させていただいて本当にありがとうございました。私たち小児科医は、子どもたちが学校での不適應を訴えて、その声を聞くという役割を持っております。従って、そういった困りごとを今回のプランにかなり反映していただけたのではないかと思います。

アンケートも取っていただき、子どもたちが何を感じているのかということもキャッチしていただいておりますので、私としては安心いたしました。

もう1つは、学校の先生方のアンケートも拝見することができて本当によかったと思います。子どもたちの困りに対応していただく学校の先生方が、どういう状況なのかということも、一部とは思いますが、理解させていただいたと思います。

医療の面で、私たちができることもあるのではないだろうか、今回の会議で思いました。今後ともご協力できるところはさせていただければと思います。本当にありがとうございました。

○ 泉構成員

改めてですけども、市民の公募という形で、このような機会に参加させていただきまして、非常にありがとうございました。

子どもを取り巻く環境がとても複雑だということをお教えいただき、学校、地域、企業が連携をしないと、教育プランの実践が出来ないと感じています。

ですので、改めてこのプランを実行していくときに大事なことが、対話と繋がりを感ずるところということで、お集まりの構成員の皆様との連携協力の部分や、市民として貢献できる場所も意識しながら、引き続き頑張っていきたいと思しますので、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

○ 眞鍋座長

それぞれ構成員の皆様が、それぞれの専門的な立場から積極的なご意見をいただいたことで、いいプランが仕上がっていると感じております。

それから、ここに至ったのは、事務局の皆さんのご苦労やご尽力があったことだと思います。ぜひこのプランをいい形で実行できるように、応援できればと思っております。

私自身もそうですけれども、私のところで学んでいる学生も含めて、少しでもお役に立てるようであればありがたいなと思っております。ありがとうございました。